

## 外観美しい差別性の高い早生カンキツ新品種

## 「みはや」

わが国では年内に出荷されるカンキツ類の大部分がウンシュウミカンですが、近年の価格低迷や隔年結果などにより、ウンシュウミカンに替わる早生カンキツの育成が期待されてきました。(独)農研機構果樹研究所では、11月から収穫、出荷可能で、果皮が滑らかで赤橙色と美しく外観上ウンシュウミカンと差別性の高い良食味のカンキツ新品種「みはや」を育成したのでその概要を紹介します。

## ☆ 技術の概要

1. 1998年に果樹試験場カンキツ部(口之津)(現 農研機構果樹研究所カンキツ研究口之津拠点)において、隔年結果性が比較的 low、早生で良食味の「津之望」に外観美しく良食味の中間母本「No. 1408」を交雑して得られた実生から選抜しました。外観が‘美’しく、‘早’生であることから「みはや」と命名されました。
2. 「みはや」は、11月下旬より成熟期を迎える品種です。成熟期の果汁の糖度は12%程度、酸含量は0.6%程度となり、糖度が比較的高く酸味の少ない品種でアンコールに似た芳香があり、食味が優れています。
3. 果実重は平均190g程度、果皮は滑らかで、11月上旬には赤橙色に完全着色し、外観美しくウンシュウミカンとは明確に区別されます(写真)。
4. 剥皮のしやすさはウンシュウミカンに比べて劣りますが、手で剥けて、ウンシュウミカンで問題となる浮皮は発生しません。2/3以上が種なし果となり、じょうのう膜は軟らかく食べやすい品種です。
5. 果肉には機能性成分のβ-クリプトキサンチンがウンシュウミカンと同程度に含まれています。
6. 樹姿は直立性と開張性の中間で、樹勢は中庸です。病害抵抗性はかいよう病とそうか病ともに一般的なカンキツ類の防除を行えば、栽培上問題になることはありません。



写真 「みはや」(上)、小原紅早生(中央)、青島温州(下)

## ☆ 活用面での留意点

1. 年内収穫可能なのでほとんどのカンキツ栽培地帯で栽培可能です。
2. 試験地、年により糖の蓄積にばらつきが認められています。夏～初秋にかけて雨の少ない年、また、安定して着果している場合に糖度が高くなる傾向があるので、耕土が浅く、水はけのよい地域での栽培がより適しています。
3. 詳細については、(独) 農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点(電話：054-369-7100)にお問合せください。

(果樹研究所カンキツ研究領域・研究員 野中圭介)